

施策番号	2304		
施策名	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導		
概要	建築物の総合的な環境性能を評価するシステムに京都独自の基準を組み込んだ制度（CASBEE京都）の活用や、建築物のバリアフリーに関する制度の見直しを行うことなどにより、環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物への誘導を図る。		
担当局・部室	都市計画局・建築指導部	共管局・部室	
上位政策	23 建築物		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		26年度	27年度	28年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	CASBEE京都の届出件数(件)	c	d	79	74	103	71.8%	b	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	a	c	498	402	500	80.4%	b	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	d	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度	27年度	28年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	バリアフリー化された建物が増えて いる。	b	b	57 11.4%	199 39.8%	181 36.2%	45 9.0%	18 3.6%	500
2	-	-	-						
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		b	b	市民生活実感調査総合評価					b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					27 年度	C
	重み付け	☒ 客観指標	b	☐ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 環境配慮建築物やバリアフリー化した建築物は一見しただけでは判断しにくく、市民の実感に反映される要素が薄い。						26 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	建築協定支援事業	10,955	11,048	普通	都市計画局
2	環境配慮建築物の普及啓発	17,172	17,779	良い	都市計画局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・平成23年度から運用を開始したCASBEE京都や、従前から実施しているバリアフリー整備の誘導について、その考え方や必要性が市民に理解され、社会的に定着したものとなるよう、「京（みやこ）環境配慮建築物」顕彰制度や、みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度の取組などについて、パンフレット、ホームページ等を通じて、普及啓発を図る。
- ・京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく事前協議や完了検査等が適正に行われるよう普及啓発を図る。

施策名	2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導				
-----	------	-------------------------	--	--	--	--

指標名	CASBEE京都の届出件数（件）					
-----	------------------	--	--	--	--	--

担当課	建築審査課	連絡先	2 2 2－3 6 1 6			
-----	-------	-----	---------------	--	--	--

1 指標の説明

京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準（CASBEE京都）の届出件数

2 指標の意味

CASBEE京都は、建築物の環境への配慮の程度を評価する仕組みであり、建築主の環境への意識の現れを示す指標

3 算出方法・出典等

京都市地球温暖化対策条例（事業担当課調べ）

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	79	74	5件減	103	平成32年度目標値を達成するために年度ごとに割り戻したもの	71.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		1,000件	32年度	45.1%	適用義務の将来的な拡大と任意提出の見込数の合計をこれまでの確認申請の傾向から推定	地球温暖化対策計画に基づき、目標値等を再設定

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上80%未満
c：40%以上60%未満
d：20%以上40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、景気動向等による建築物の着工件数の影響が大きいことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

26	27	28
c	d	b

1 指標の説明

バリアフリー化された建築物（施設）の件数

2 指標の意味

「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	498	402	96件減	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計	80.4%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		500	32年度	80.4%	・過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計 ・京プラン実施計画 第2ステージ	評価期間の取組状況をより正確に反映させるため、評価基準を変更 23年度 357件 24年度 434件 25年度 497件 26年度 498件 27年度 402件 平均 437件

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：90%以上
b：80%以上90%未満
c：70%以上80%未満
d：60%以上70%未満
e：60%未満

6 基準説明

これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。

7 評価結果

26	27	28
a	c	b